

『インドの留学生施策：送り出しと受け入れ』

東京外国語大学 藤井 毅

インドは、独立後、非同盟主義運動の中心となったこともあり、アジア・アフリカ諸国より積極的に多くの留学生を受け入れて今日に至っている。その一方で、多くの留学生を欧米諸国に送り出しており、様々な領域において、優秀な人材の供給国ともなっている。こうした来歴と現状があるにも拘わらず、インドの留学生施策は、系統立てて詳らかにされているとは言い難い。

本報告では、まずもって、インドをはじめとする南アジア一帯が、歴史的に見ると中国とならぶ移民の送り出し地域であるという事実に着目した上で、独立後の留学生の受け入れと送り出しについて、いくつかの事例を取り上げて検討を加えてみたい。

論及する要点は、以下の通りである。

- ① インド系移民史のながれ
- ② インドの高等教育における英語をはじめとする諸外国語の位置付け
- ③ 海外在住インド系住民（NRIs、PIOs）政策との関係
- ④ 安全保障としての人的ネットワークの形成
- ⑤ 留学生受け入れにおいて、「インド学・インド研究」は、主要分野か
- ⑥ 人材供給対象の主要分野（留学生送り出しにおいて、理系優先策は、あるのか）